

## 総合報告

### コンテンツ収集のための方策 分析・調査報告

#### 要 旨

国立情報学研究所 河合将志

近年注目を集めているゴールドOAではあるが、それにはAPCの値上をはじめとするいくつかの問題が指摘されており、グリーンOAはOA戦略のなかで依然として重要な意味をもつ。このグリーンOAを可能にするIRの日本における設置数は約800にも及ぶが、その活用状況は一様ではなく、グリーンOA進捗度の高い一部の機関と、残る進捗度の低い多くの機関が混在している状況にある。この両者を分かつ要因を体系的に特定できれば、グリーンOA推進策の検討が可能になることから、本研究では要因として広義の意味での図書館の取組（グリーンOAにかかわる業務や制度など）に着目し、その特定を試みた。アンケート調査によって取得したデータ等を用いて計量分析を行った結果、「OA方針」や「セルフアーカイブ」などの影響力が小さい一方で、研究者へ直接アプローチする「学術雑誌論文提供依頼」の影響力が特に大きいことがわかった。また、追加で収集したデータからは、「学術雑誌論文提供依頼」の成功率がほぼ定常的に50%を超える機関もあることが予想に反して明らかになった。